

ONE DROP FARM ICHIHARA





中山間地域フォーラム2023 『里山はソフトである』

株式会社ONE DROP FARM 豊増 洋右

一般社団法人千葉県農業協会 副会長 きさらづアグリフーズ推進協議会 事務局長 "有機の里づくり"千葉県団体連絡会 理事

中山間地域での事業における課題

地域の魅力を
 事業ポートフォリオで表現する。

② 「人財を育てられる人財」を育てる。

③「消費」的発想から「共創」的発想へ

株式会社ONE DROP FARM 経営概要

- ・2018年 3月設立
- ・スタッフ:正社員1名 アルバイト3名
- ・事業内容:有機野菜、蜂蜜、および蜂蜜加工品の生産、販売
- ・営業許可:飲食営業許可(屋外・関東一円)、菓子製造業
- ・経営面積:7.3ha(全て有機JAS認証)+養蜂 50群
- ・管理面積:上記に加え、約2ha(蜜源として管理)
- ・設備 :出荷場・育苗ハウス1棟・冷蔵庫(10坪)・加工場・売店
- ・栽培品目:

にんじん(春・秋冬)、なす、ブロッコリー、キャベツ、ミニ白菜 大根(カラフル系)、ほか 年間約10品目

・販売先:大手量販店(南関東エリア)、地域量販店、良品計画、やさい バス、地元飲食店、自然食品店、ほか地元直売所・道の駅 等







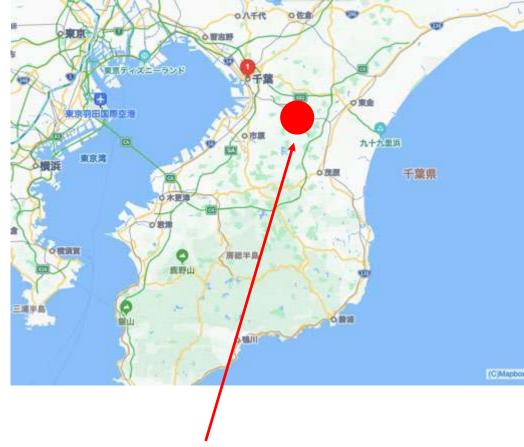






千葉県における有機農業の経営環境

- ・大消費地に近い =全てが高い
- ・さんぶ野菜ネットワーク、旧デコポン、三芳村など、有機農業運動のパイオニア的出荷団体がいる = 有機品の相場がある程度決まっている
- ・中房総~南房総は物流が弱い。
- ・北総の物流は都心へ向かう物流 として整備されている = 県内物流 が弱い。
- ・南房総はまとまった圃場の確保が難しい。



ONE DROP FARMの位置

- ・房総半島のほぼ真ん中。
- ・市原市の北東端で、千葉市に隣接しているが、 バブル期のゴルフ場開発、宅地開発のための大 規模用地買収の影響で、60年以上の耕作放棄地 が一団で残る荒廃地。
- ・近隣の人口密集地への移住が進み、極端に高齢化・過疎化した典型的な中山間村。













レジリエンスを高める必要性

● 房総半島の分水嶺地区

- ・千葉市緑区、市原市の市東地区から長柄町、牛久、養老渓谷、そして大多喜町へ至る地区は、中房総地区の分水嶺に位置し、令和元年秋の災害では400箇所以上において土砂崩れが生じ、甚大な被害が生じた。
- ・現在も多数の道路が通行止めのまま、地域の離農に拍車をかけている。

● 中山間村の条件不利地における農業

- ・中山間村ゆえに、小規模農家、高齢農家が多く、生産性の高い農業が難しい。
- ・大消費地(千葉市)に隣接しているエリアではバブル期のゴルフ場開発・宅地開発のため大手不動産会社による開発用地として長期間農地が仮登記されたままになり、広大な耕作放棄地が残っている。

● 最近の動き~

- ・大消費地に近いところにポツンと残された里山の風景を強みに、新たなスタイルの農業を試みる、ローカル&オーガニックな新規就農者が現れ、新しい展開を計画している。
- ・農業としての生産性は追求できないが、里山のもつ 多面的な機能、価値を消費者に伝えることができる ような事業を、複数の小規模のプレイヤーが連携し て企画している。























停電は 19日目に復旧





Wait, what's this Trump Ukraine story about?

I US & CANADA

Hangovers are 'illness', rules German court

EUROPE

The truth about your matcha latte

I TRAVEL

2019年9月24日のBBC NEWS トップページ

2019年9月24日のニュースより



地下鉄等計画運体 13時頃~終日 12日東京メトロ有楽町線 豊洲~新木場 138



台風21号 記録的短時間豪雨 房総半島で500箇所以上の土砂崩れ



いろいろな耕作放棄地

中山間地域に多い耕作放棄地はレベル3以上となっ ており、一般的な営農では再生・活性化は困難。









中山間地域における条件不利農地の課題

①狭小農地/条件不利農地

- ・狭小農地に適した新しい営農モデルの必要性
- ・省力的な地力向上・技術の習得の必要性

②地域の活力

- ・地域営農との連携
- ・周辺事業、企業との連携
- ・多様なプレイヤーの参入・関わりの創出

③地域を特徴づける魅力の創出

- ・地元既存農産品とのコラボレーション
- ・特徴的な加工品の開発

農モデルの実証・実現が急務!!ら、高い付加価値と地域への活力を呼び込める営る、条件不利な農地において、省力的でありなが再生農地のなかでも、全国的に課題になりつつあ

養蜂事業による再生への挑戦有機的管理による蜜源管理と

【具体的な実行内容】

- ① 再生農地における省力管理技術の習得・実践
- ② 養蜂事業の事業化、試験養蜂の実施とはちみつの試験生産
- ③ はちみつと地元果樹の加工品の製造、数アイテム製作・テストマーケティング
- ④ 環境教育/情報発信のwebサイト・SNSによる情報発信
- ⑤ 新しいツーリズムの企画と企業研修の商品化

【実行課題】

① 再生農地の省力管理技術の研究

- ・緑肥栽培による省力的地力向上+生物性の改善
- ・抑草植物による省力的農地管理+景観の維持
- ・蜜源植物・果樹による再生農地の蜂場化

② 再生農地の管理技術・人財育成

- ・里山における養蜂技術人財の人財育成
- ・蜜源の管理技術・果樹栽培技術の習得
- ・再生農地の土作り技術・管理技術人財の育成

③ 地域農家とのコラボレーション

- ・果樹農家とのポリネーション連携
- ・果樹農家とのはちみつ加工品開発
- ・はちみつ加工品の販売とマーケティング

④ 環境教育・企業研修

- ・啓蒙・啓発webサイト、SNSでの情報発信
- ・体験イベント、企業研修などの商品化

⑤ 実行組織の運営

- ・地元協議会の運営
- 関連企業との連携
- ・持続可能な活動組織の構築

次世代農業=

次の世代にも責任を持って 受け継いでいけるいける農業 有機的管理技術の必要性 ~経済的にも理にかなった技術として~

狭小農地・条件不利農地

- ・圃場自体が狭く効率が悪い。
- ・圃場は広いが、出入り口が狭い
- ・または進入路が急斜面、悪路等で大型機械の使用が困難
- ・排水性が悪い/沢から絞り水が浸入する/潅水インフラがない

作付をしても経費ばかりがかさみ、競争力のある農業ができない



- ・しかし、耕作をしなければ地力は向上しない、荒廃する。
- ・さらに放置すれば、イノシシ等、有害鳥獣の住処が増える。

省力的な管理を行いつつ

地力向上/景観の維持 を図る





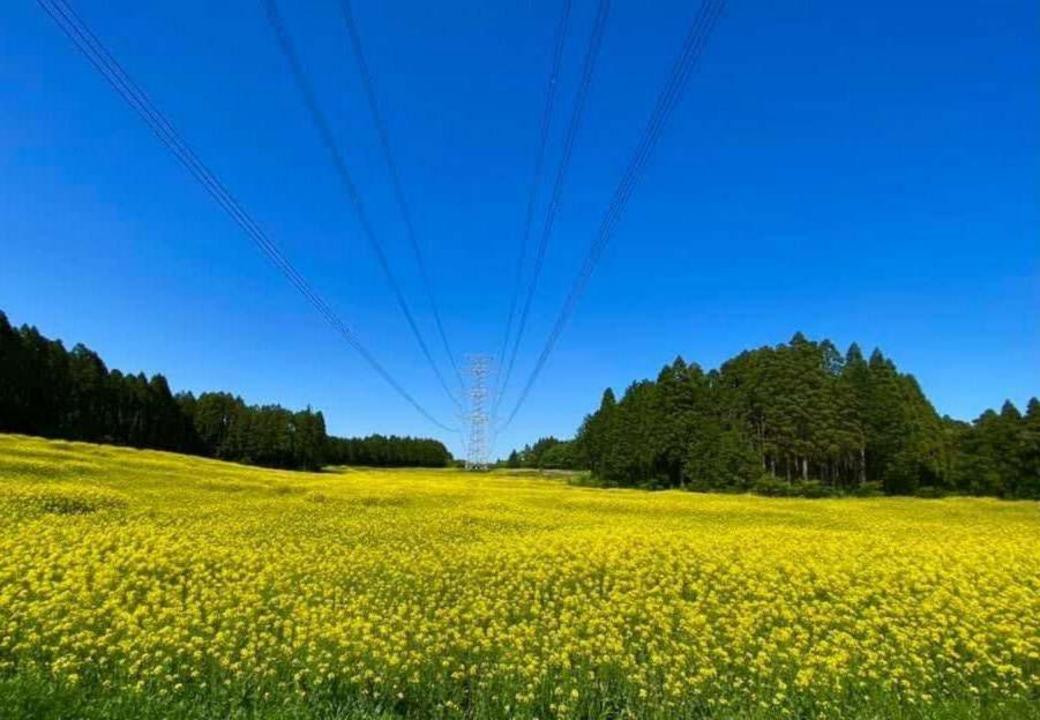
この双方を両立する技術が必要

さらに、これらを「地域」と連携して継続していくこと



















経営のKPIを「レジリエンスの高さ」に置く

キーワードは、人と組織の「レジリエンス」

【レジリエンス】 = 「しなやかな強さ」「元にもどる力」 強い風にも、重い雪にも、ぽきっと折れることなく、しなってまた元の姿に戻る竹の ように、「何があってもしなやかに戻る立ち直れる力」のこと。(環境ジャーナリスト 枝廣淳子)

異常気象 環境問題 感染症 人口問題

世界的な 政治不安

- ・予測不能なことが起こる可能性=「不確実性」
- ・どんな業種も必ず「大きなダメージを受ける可能性」
- ・公私問わず、大きな変化に見舞われる可能性

ダメージを受けない経営よりも、 ダメージを受けても立ち直れる人と組織の必要性





農場直売





道の駅・ 直売所



催事



無印良品



小売•仲卸

地元飲食店

自社EC



販路の ポートフォリオ



問品と販路のホートノオリオ・マトリクス									
	農場直売	催事 販売	道の駅・ 直売所	小売 店	仲卸• 流通	飲食店	自社EC	産直ギ フト系	その他
はちみつ	0	0	0	Δ	×	0	0	0	_

×

0

×

X

O

0

0

Δ

0

Δ

×

0

蜂蜜加工品

(燻製蜂蜜)

飲食•

内製加工品

外注加工品

有機野菜

農業体験

企業研修

0

0

0

0

0

0

0

ONE DROP FARMのPPM分析

高 市場成長率

問題児

(problem child) 積極的な投資が必要

- •有機野菜
- •有機加工

花形

(star)

継続投資でシェア維持

- •はちみつ直売
- ・燻製はちみつ

負け犬 (dog)

撤退

- •作業受託
- ·加工受託

金のなる木

(cash cow)

問題児・花形に資金をまわす

- ・ソフトクリーム(撤退済)
- ・飲食 /・スイーツ関連
- •農場研修•企業研修

低

高



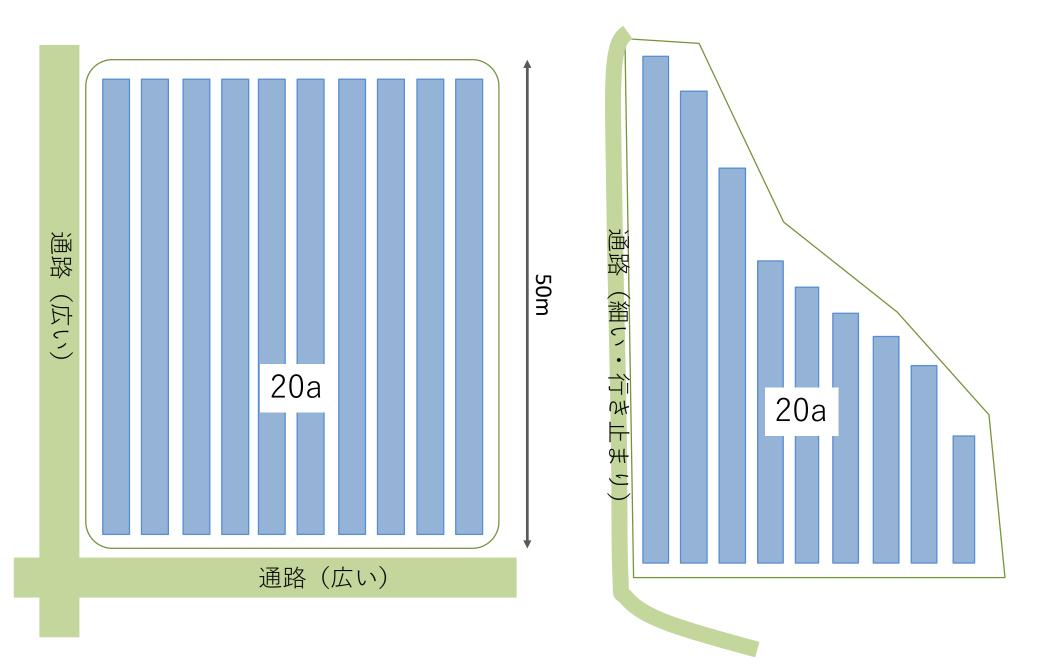








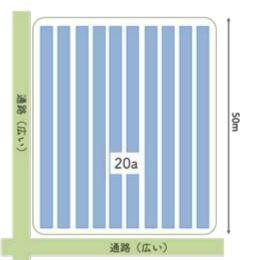
同じ20aの畑。 生産性はどれくらい違うと思いますか?

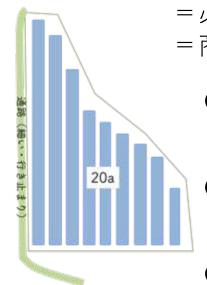


四角い圃場と不整形な圃場では生産性が大きく異なる

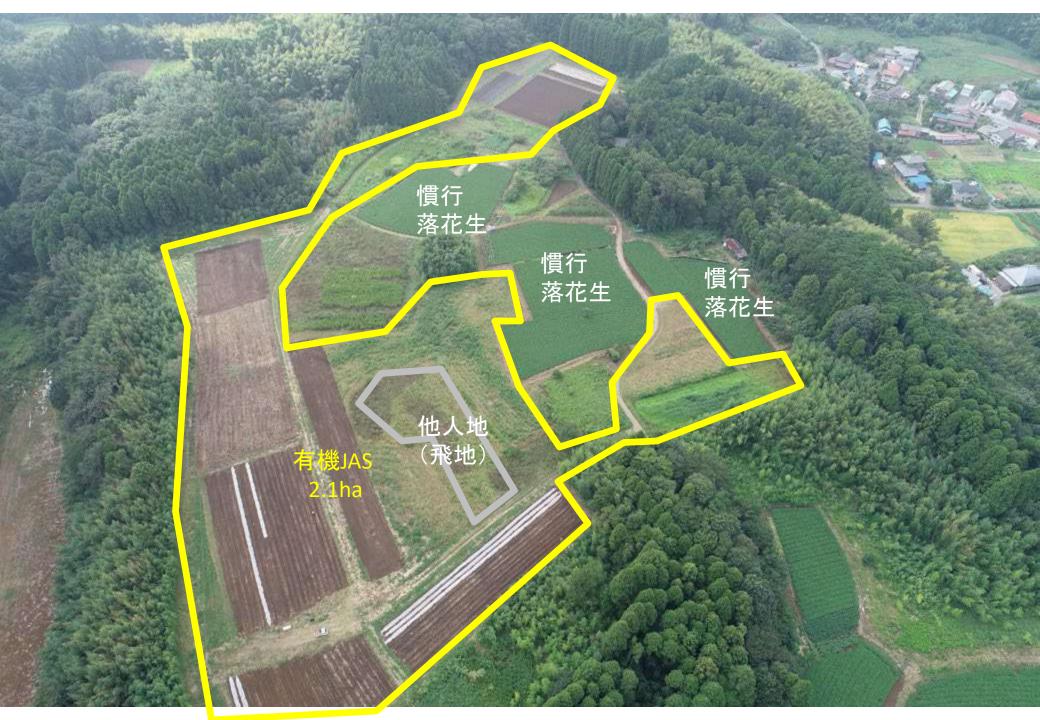
- = 必要な経費が大幅に異なる
- = 商品1個あたりのコストが全く違う
 - 作付けできる有効面積の違い (余白、トラクターの転回スペース)
 - ●マルチング、トンネルなどの被覆作業の作業効率 (大抵の被覆資材は200m巻き)。
 - ●機械の燃料代(転回、ターン、セットアップの回数と実際の作業時間)
 - ●収穫作業、積み込み作業等の運搬効率、作業効率。
 - ●収穫数量の見通し、作業工数の見通しなど日々の数量管理の正確性。
 - ●作業動線、作業車両が複数台行き来できるか? 日々の見回り、管理作業時のターン、行き交いのし やすさ。

e.t.c.



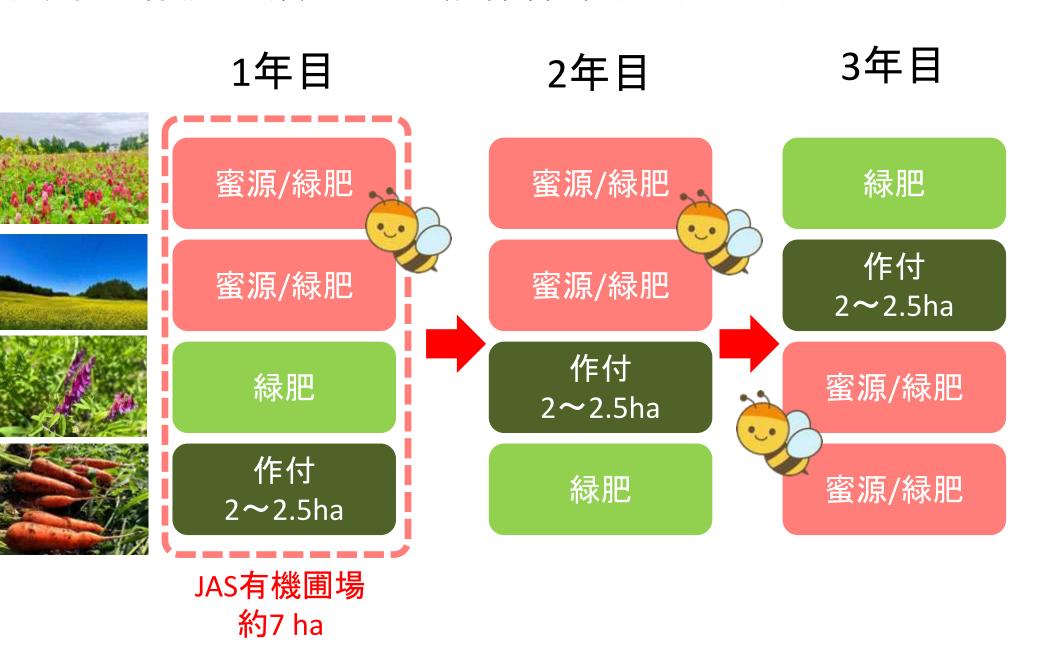








蜜源と緑肥を活用した輪作体系のイメージ



















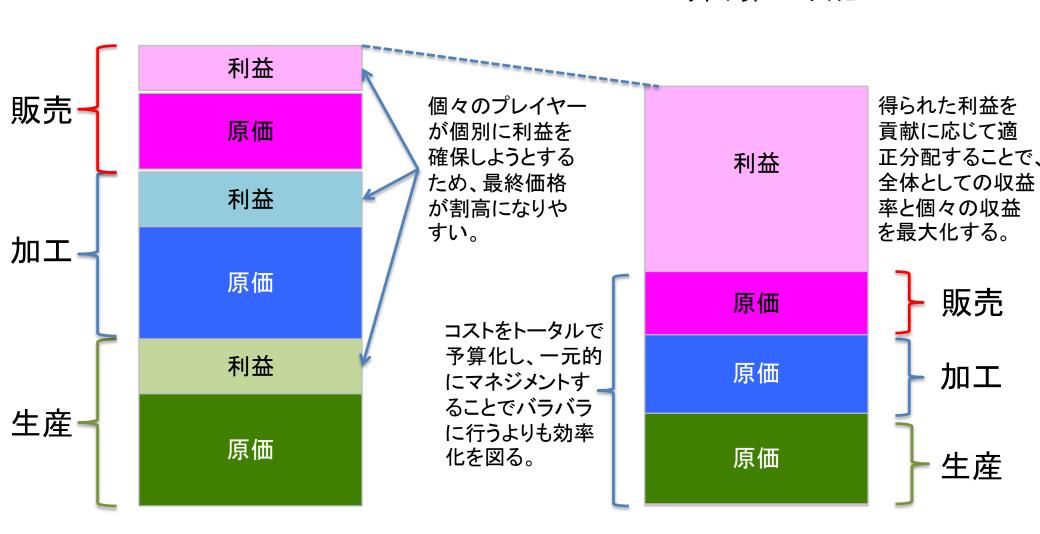






足し算の6次化と掛け算の6次化

〜外部委託と、自社内製化のポートフォリオを考える〜 足し算の6次化 掛け算の6次化















催事①屋外マルシェ系







ONE DROP FARMの商品市場マトリクス								
	農場 直売	催事 販売	道の駅・ 直売所	小売 店	仲卸• 流通	飲食店	自社EC	産直ギフト系

X

O

×

0

X

0

0

0

0

0

0

0

0

0

はちみつ

蜂蜜加工品

(燻製蜂蜜)

飲食•

内製加工品

外注加工品

有機野菜

農業体験

企業研修

その他

0

0

0

0

Δ

0

0

Δ

×

中山間地域での事業における課題

地域の魅力を
 事業ポートフォリオで表現する。

その地域の置かれた条件を冷静に分析し、 いかにレジリエンスを高めるか?

農業経営者に求められる資質・スキル(順不同)

- ・栽培技術(を磨き続ける環境/モチベーション)
- ・体力・自己管理技術
- ・経営に関する一般的な知識全般 (財務・マーケティング・人事・組織・マネジメント・IT)
- ・コミュニケーション・スキル (コーチング・リーダーシップ・傾聴法、e.t.c)
- ・メンタルの強さ・精神的レジリエンスの高さ

「レジリエンスの高い農業」のためのポイント

不確実性・複雑系の地域社会 = ルール無用の無差別級格闘の現場 これまでの社会 地域社会

- ・組織内の位置づけ・役割がある
- ルール、規則が明確
- ・共通言語がある
- ・指示・命令系統がある
- ・意思決定プロセスが明確
- コミュニケーションを とれる仕組みがある

- ・役割・役職・位置づけがない
- ・ルール、規則があいまい (状況によってルール異なる)
- ・共通言語・共通文化がない
- ・指示命令系統がない
- ・誰が意思決定権者かがわからない
- ・率先してコミュニケーションを取らなければ存在感を発揮できない。

→ しなやかな発想をもって対処できないと、すぐに挫折してしまう。

自己紹介:豊増洋右(とよますようすけ)

- ・1976年 佐賀県鳥栖市の酪農家に生まれる。
- ・2000年 東京大学文学部 卒業(専攻は社会学)。 大手経営コンサルティング会社を経て、2008年よりap bankのメンバーとして農場設立を担当。
- ・2010年より「(株) 耕す」の取締役として農場経営を担当。以来、有機野菜、平飼い卵の生産など循環型農場経営の実践を行うほか、地元小学校の地産地消プロジェクトや、木更津市の「オーガニックなまちづくり」推進プロジェクトなど「持続可能な地域」づくりに奔走している。
- ・2014年より(社)千葉県農業協会の副会長に就任。 千葉県の農業活性化のための各種事業に携わる。
- ・2018年より(株)ONE DROP FARMの代表取締役 に就任。市原市の212haの大規模農地再生事業に従事。







2010-2017: 千葉県木更津市にオーガニックファームを設立するプロジェクト (株)耕す / kurkku fields 農場長として農場経営全般・開発業務 KURKKUFIELDS











役に立ったと思われるスキル (いまのところ)

- 経営管理・マーケティングに関する知識
- ●人事・組織に関する知識、経験 →「美点凝視」の訓練
- 自動車販売・修理業の経験 → 機械の修理ができる。
- コーチング、チームビルディング、ファシリテーションの技術
- 飛び込み営業・プレゼンテーションの技術
- 武道の経験 → 反復訓練による「習慣化」による生産性向上
- 酪農業の経験 → 家業としての農業の経験

経験しておけばよかったと後悔していること (いまのところ)

- 海外留学・語学習得 → やはり英語は必須
- 海外農場での実務経験 → 海外のオーガニック農場の知見
- 飲食店・食品加工業での経験 → 衛生管理の知識技術が必須
- 流通業・小売業での経験 → 青果流通・小売の経験がない
- 大規模農家での実務経験 → 実は経験がない…。

e.t.c.

市原で農場をはじめて、まずやったこと

- ① 有機JAS認証を取得する(2018年1.4ha → 2021年 6.7ha)
- ② 農場事務所で直売を開始し、飲食営業許可を取得する(2019年5月取得)
- ③ 出荷場(瀬又)で、菓子製造業の許可を取得する(2021年4月取得)
- ④ スタッフ全員が食品衛生責任者 講習会受講(衛生責任者資格取得)





人財育成について

スタッフ	営業/ 地域対応	露地野菜	養蜂	加工	接客/催事
豊増	0	0	0	0	0
A(社員)	0		0	0	0
アルバイトB (女性)	0		0	0	0
アルバイトC (女性)	0			0	O
アルバイトD (男性)			0		
アルバイトE (新人女性)		0			0

「レジリエンスの高い農業」のためのポイント

キーワードは「エシカル」な行動選択ができる人財育成

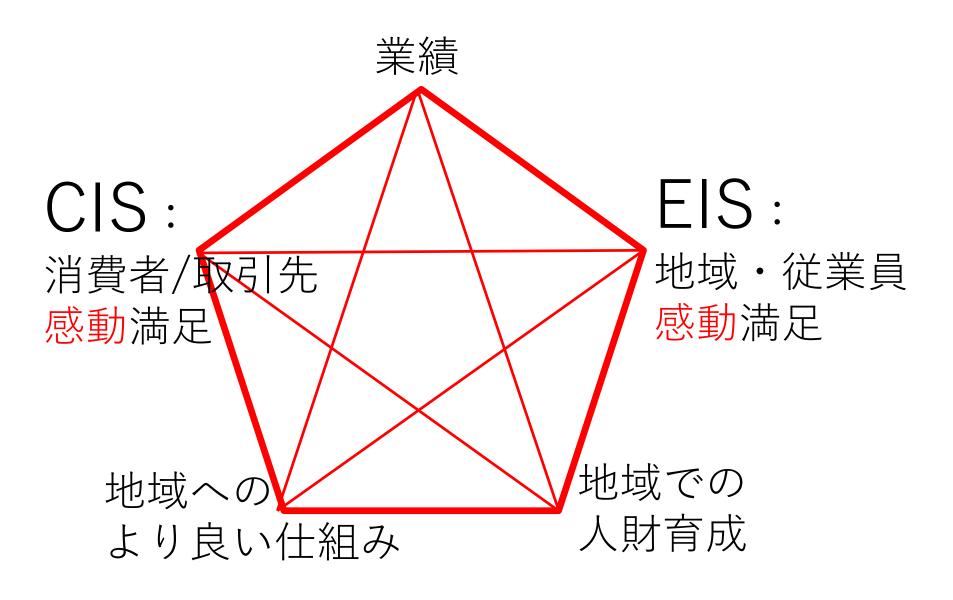
短期的な視点での「良し悪し」、ではなく、 自社がどのような「地域」「社会」「環境」を "願う"のか、という視点に立って、行動選択ができる人財育成。

(例) リサイクルのジレンマ 多くの場合、ペットボトルはリサイクルするよりも その場で焼却した方が排出されるCO2は少ない。 (焼却方法による)

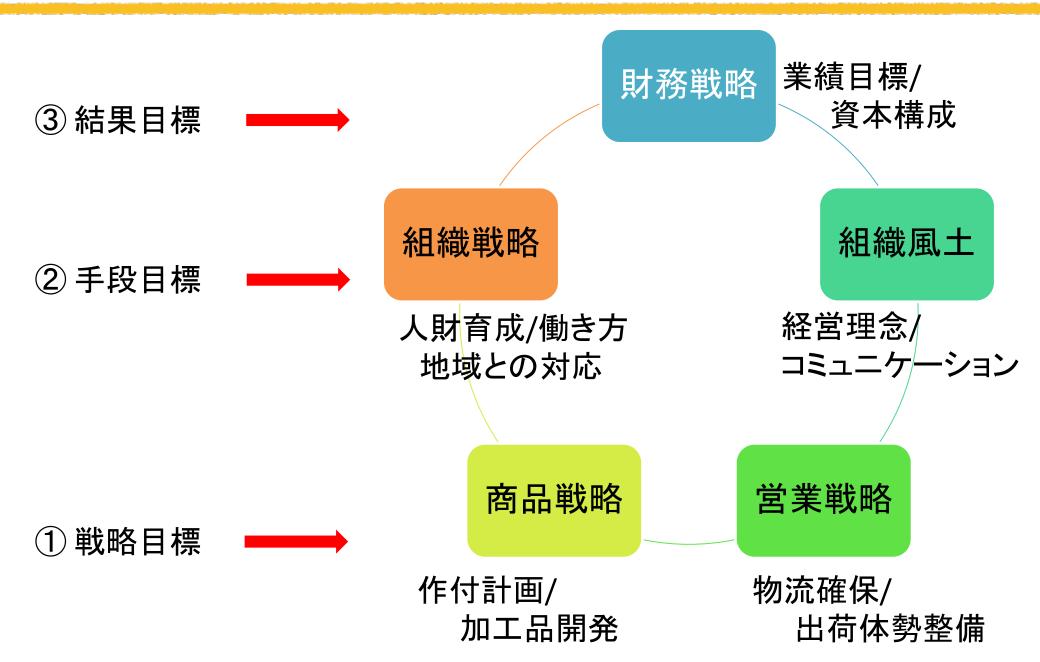
【エシカル】=倫理的な 身近なものごとに対して、それがどこで作られ、最終的にどこへ行き着くのか、製造される労働環境や廃棄される際に生じる汚染などに に関心を寄せ、配慮できる暮らし方。 中山間地域での事業における課題

② 「人財を育成できる人財」を育てる。

地域や事業のビジョンを示し、 地域にいる人財・人的資本の価値を 高め続ける経営者であることが大切。 レジリエンスの高い組織のための「5つの成果」



→「感動」レベルまで各アクションを高められるか?



ONE DROP FARM 直近の業績(2023年5月期)

【売上】

36,000千円

【経費】

34,000千円

16,000千円 (44%) うち人件費

【経常利益】

2,000千円

【特別損失】

▲2,500千円

(農地譲渡に伴う)

【税引前利益】 ▲500千円

●売上内訳:

・はちみつ/加工品 : 20,000千円

: 10,000千円 ・有機野菜

: 6,000千円 ・その他

(補助金・企業研修等)

【販路構成】

- ・農場直売 58%
- ・飲食店 15%
- ・小売/卸売 13%
- ・その他 14%

(イベント等)

【組織構成】

- ・代表1名
- ・社員1名(養蜂/売店)
- ・アルバイト 4名

(露地野菜2名、

養蜂/加工/売店 2名)

競争から共創へ

【会社設立後に投資したもの~お客様に近い方から~】

・大型冷蔵庫(10坪) 300万円

・出荷場の手直し 約50万円

・加工用キッチン 100万円

・菓子製造業への改装 100万円(滅菌機、ダクト、その他)

・人参洗い機・大根洗い機 60万円

・人参収穫機 160万円(中古)

・トラクター・フレールモア 500万円

・井戸 (離れた圃場) 200万円

・売店・飲食店舗 250万円

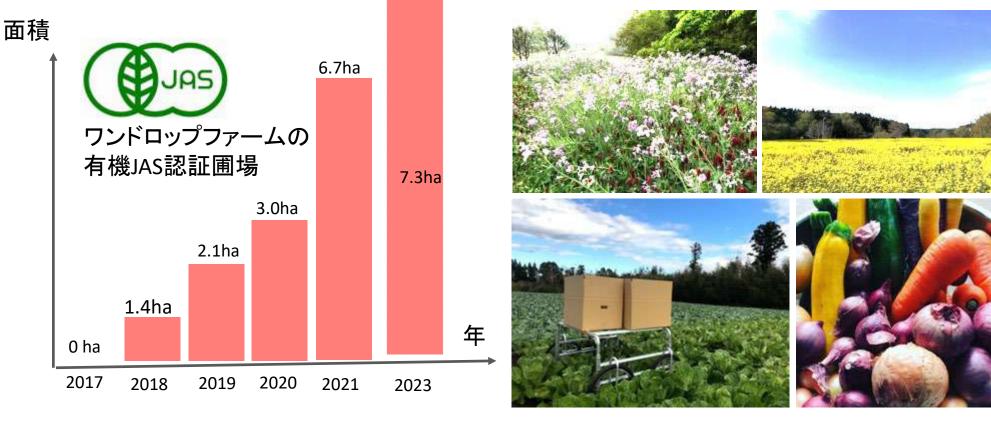
ことで、持続可能な地域づくりに貢献する。

Ver.2023/02/06



離農(予定)農地を緑肥と蜜源植物で有機的に管理することで

オーガニック・プレイヤーを呼び込む



この間を緑肥や蜜源植物で地力を増進しながら地域で管理することで、新規参入しやすくなる。

有機的管理開始 収穫
1年間
離農 禁止資材不使用
前作の収穫完了 前作の収穫完了

地域における離農農地、あるいは離農予定農地については、地域で有機的管理を1年間行えば、その後に参入する就農者は、1年目から有機JAS認証農産物を出荷できるようになる。参入者にとって、すぐに有利販売できる環境を地域で整えておく。

♥JAS) 「転換期間中有機農産物」として出荷可能

2年間

禁止資材不使用

(JAS)

収穫

)「有機農産物」として出荷可能

消費者の購買行動に素直に耳を傾ける ~オーガニック専門コーナーで有機野菜が売れないのはなぜか?~

オーガニック専門コーナー

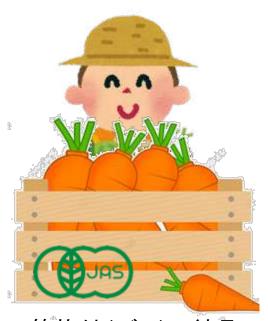
一般野菜のコーナー



有機人参 ¥198お買得人参¥99-

人参 ¥158有機人参 ¥ 198-

有機JAS認証 「有機小分け認証」について



箱格付(バラ)で納品



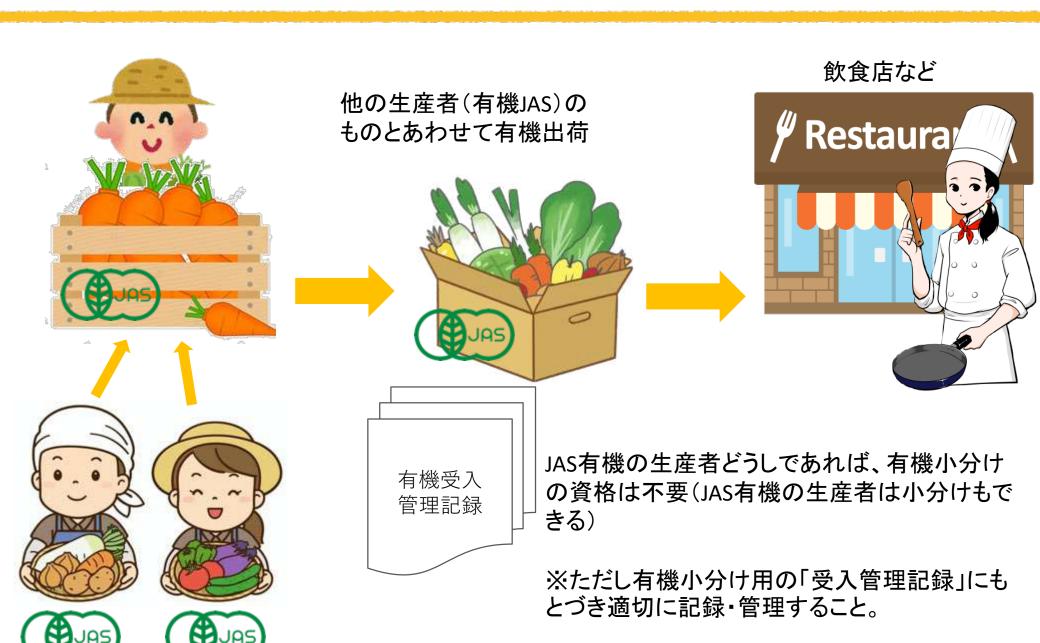
有機小分け の資格が必要

ORGANIC STORE (有機小分け認証事業者)



袋詰めで販売

※有機小分け認証事業者以外は、詰め替えて新たに有機 JASシールを貼付することはできない。





"有機の里づくり"千葉県団体連絡会 通称: ちばだん

「ちばだん」は、長年国内における有機農業、オーガニックの普及に取り組んできた各分略のコペシェリコトにナー

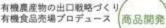
て設立されました。有機農業の生産者はもちろん、食品加工、物流、流通、小売、そして 有機認証にいたるまで、オーガニックにかかわる幅広い分野の専門家が業界の垣根を超え かかわる専門知識と実際の生産物をワンストップで提供できる、千葉県のローカル&オ・

フェッショナル集団です。



ンドです!









加工品開発プロジェクト







有機技術指導、自治体職員向け研修、 国際的なオーガニック推進組織 (ALGOA/IFOAM) 各種スタディツアーの実施 との連動、海外オーガニック情報の発信、PGS認証の導入

物流構築





オーガニック・トレインプロジェクト (貨客混載+マイクロ物流)

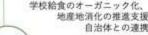
学校給食 オーガニックの 生産と消費をつなぐ!

mission

千葉を有機の里に

千葉のオーガニックを 世界に発信!

情報発信







有機JAS認証取得支援・有機レストラン認証 および自治体職員への有機JAS理解普及



「ちばだん」のメンバー

千葉の「ローカル&オーガニック」を業界の垣根を超えて、現場から力強く進めていきます。











































徼(生活クラブ風の村理事長)/謝会長:下山久信(農事組合法人 さんふ野菜ネットワーク 理事) /事務局長:徳江倫明((社)フードトラストプロジェクト 代表)/理事:渡辺芳郎(木更津市長) (山武市長)、太田 洋 (いすみ市長)、豊増洋右 ((株) ONE DROP FARM 代表、武内 ン 代表、長島成幸(恵泉福祉会 吉見光の子 モンテッソーリこどもの家 隣長)。菊川一平 ((株) ナリタヤ 代 表),適藤眞一((株)遠藤製館 代表、福住洋美(生活クラブ生活協同組合 千葉 理事長)

EURKKU (kurkku fields), 農業生産法人(株) 耕す、石

理事および運営事務局(の一部) 国内のオーガニックを牽引してきたメンバーと生産者によるスペシャリスト集団



2020年「ちばびお」事業に参画

























"有機の里づくり"千葉県団体連絡会(通称:ちばだん) 〒285-0837 千葉県佐倉市王子台 1-28-8 ちばぎん臼井ビル4F 生活クラブ 風の村内 TEL:03-6821-4219 e-mail: info@chiba-organic, life URL: chiba-organic, life 担当:豐增·蘭部









2021年 春~夏















消費から共創へ

消費型観光事業

地域を切り売りし、 消費するだけの観光 事業

- →お金を落としてもら うだけ。
- →地域にサービス負 荷をかける。

共創型観光事業

地域の魅力を引き出し、 地域内で事業を行うプ レイヤーを育て、発展 させられる事業。 →地域に魅力的な「商 品「ノウハウ」そして、 「人財」というソフトウェ アが残る。







中山間地域での事業における課題

③「消費」から「共創」へ

競争による差別化ではなく 共創による差別化によって、 地域に「人財」を残していけるような 事業を続けていきたい。

中山間地域での事業における課題

地域の魅力を
 事業ポートフォリオで表現する。

② 「人財を育てられる人財」を育てる。

③「消費」的発想から「共創」的発想へ

